

4

(60点)

 $xyz$ 空間内において、連立不等式

$$\frac{x^2}{4} + y^2 \leq 1, \quad |z| \leq 6$$

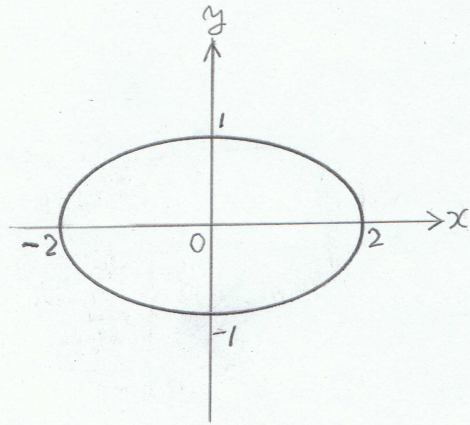
により定まる領域を  $V$  とし、2点  $(2, 0, 2)$ 、 $(-2, 0, -2)$  を通る直線を  $l$  とする。

- (1)  $|t| \leq 2\sqrt{2}$  を満たす実数  $t$  に対し、点  $P_t\left(\frac{t}{\sqrt{2}}, 0, \frac{t}{\sqrt{2}}\right)$  を通り  $l$  に垂直な平面を  $H_t$  とする。また、実数  $\theta$  に対し、点  $(2\cos\theta, \sin\theta, 0)$  を通り  $z$  軸に平行な直線を  $L_\theta$  とする。 $L_\theta$  と  $H_t$  との交点の  $z$  座標を  $t$  と  $\theta$  を用いて表せ。
- (2)  $l$  を回転軸に持つ回転体で  $V$  に含まれるものを考える。このような回転体のうちで体積が最大となるものの体積を求めよ。

# [確認事項]

$$\frac{x^2}{4} + y^2 = 1 \quad \text{----- ㉞}$$

これは右図のような楕円を表す。

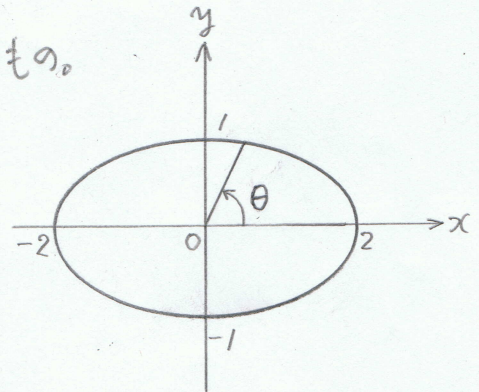


$$\frac{x^2}{4} + y^2 \leq 1$$

これはこの楕円の周及び内部を表す。

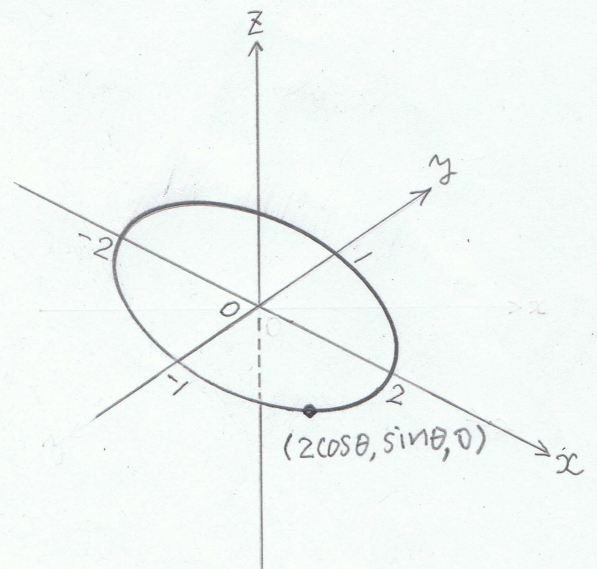
$$\begin{cases} x = 2\cos\theta \\ y = \sin\theta \end{cases} \quad \text{----- ㉟}$$

これは楕円㉞を角 $\theta$ で媒介変数表示したもの。



$$(2\cos\theta, \sin\theta, 0)$$

これは、右図のように、 $xy$ 平面上にある楕円㉞の周上の点を表す。

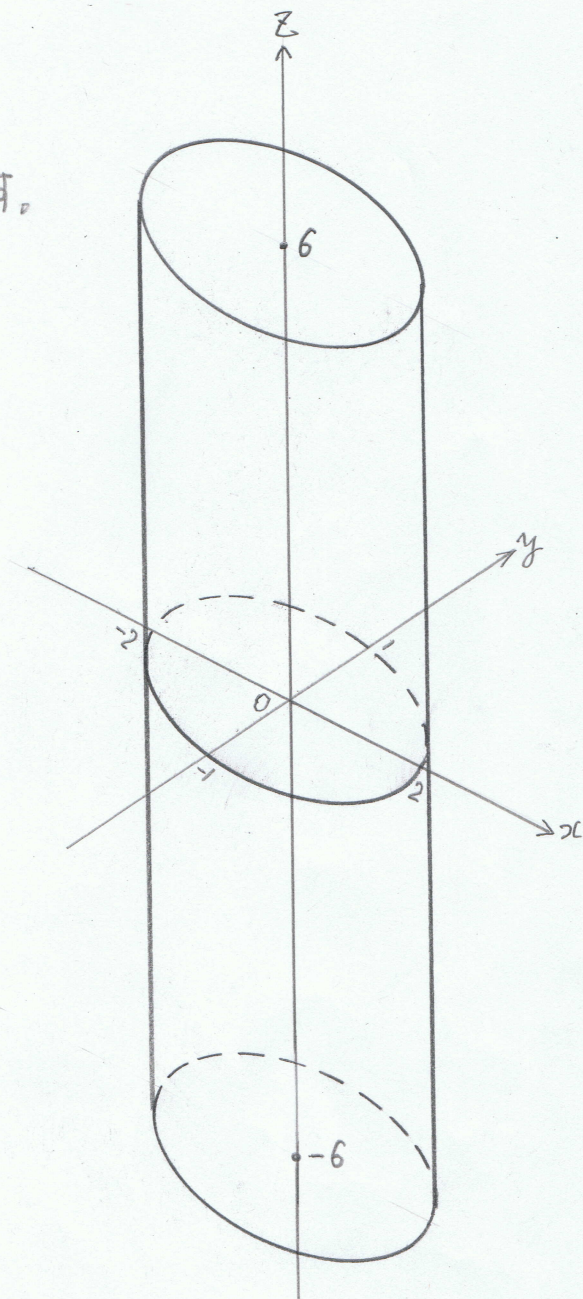


連立不等式

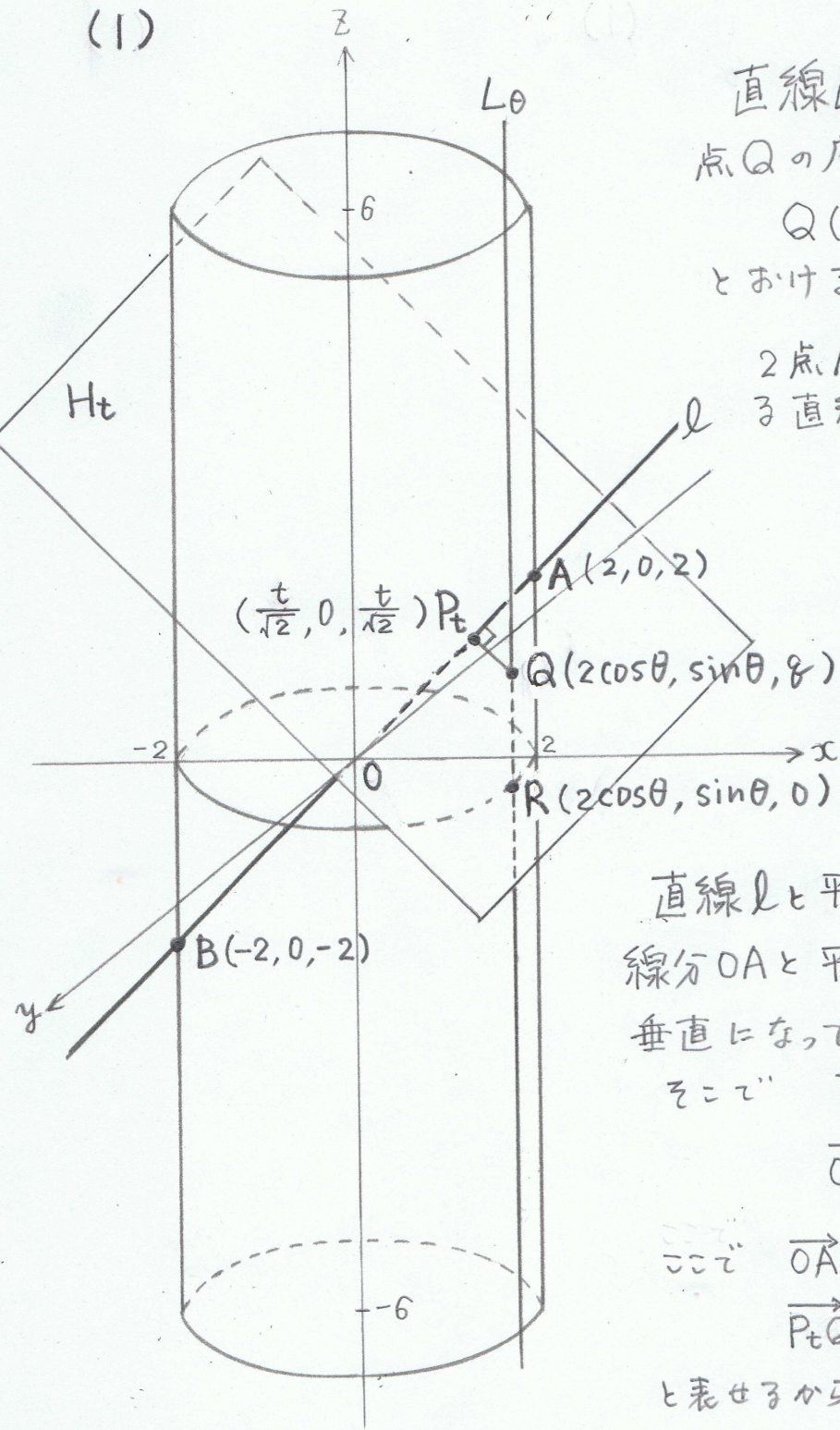
$$\left\{ \begin{array}{l} \frac{x^2}{4} + y^2 \leq 1 \\ |z| \leq 6 \end{array} \right.$$

$|z| \leq 6 \rightsquigarrow -6 \leq z \leq 6$

これは右図のような楕円柱を表す。



(1)



直線  $L_0$  と平面  $H_t$  の交点を  $Q$  とすると  
点  $Q$  の座標は  $\theta$  を実数として

$Q(2\cos\theta, \sin\theta, \phi)$  とおける。

2点  $A(2, 0, 2)$ ,  $B(-2, 0, -2)$  を通る直線  $l$  は原点  $O$  も通っている。

直線  $l$  と平面  $H_t$  は垂直  $F$  から  
線分  $OA$  と平面  $H_t$  上の線分  $P_tQ$  は  
垂直になっている。

そこで  $\vec{OA} \perp \vec{P_tQ}$  といえるから  
 $\vec{OA} \cdot \vec{P_tQ} = 0$  となる。

ここで  $\vec{OA} = (2, 0, 2)$

$\vec{P_tQ} = (2\cos\theta - \frac{t}{\sqrt{2}}, \sin\theta, \phi - \frac{t}{\sqrt{2}})$

と表せるから

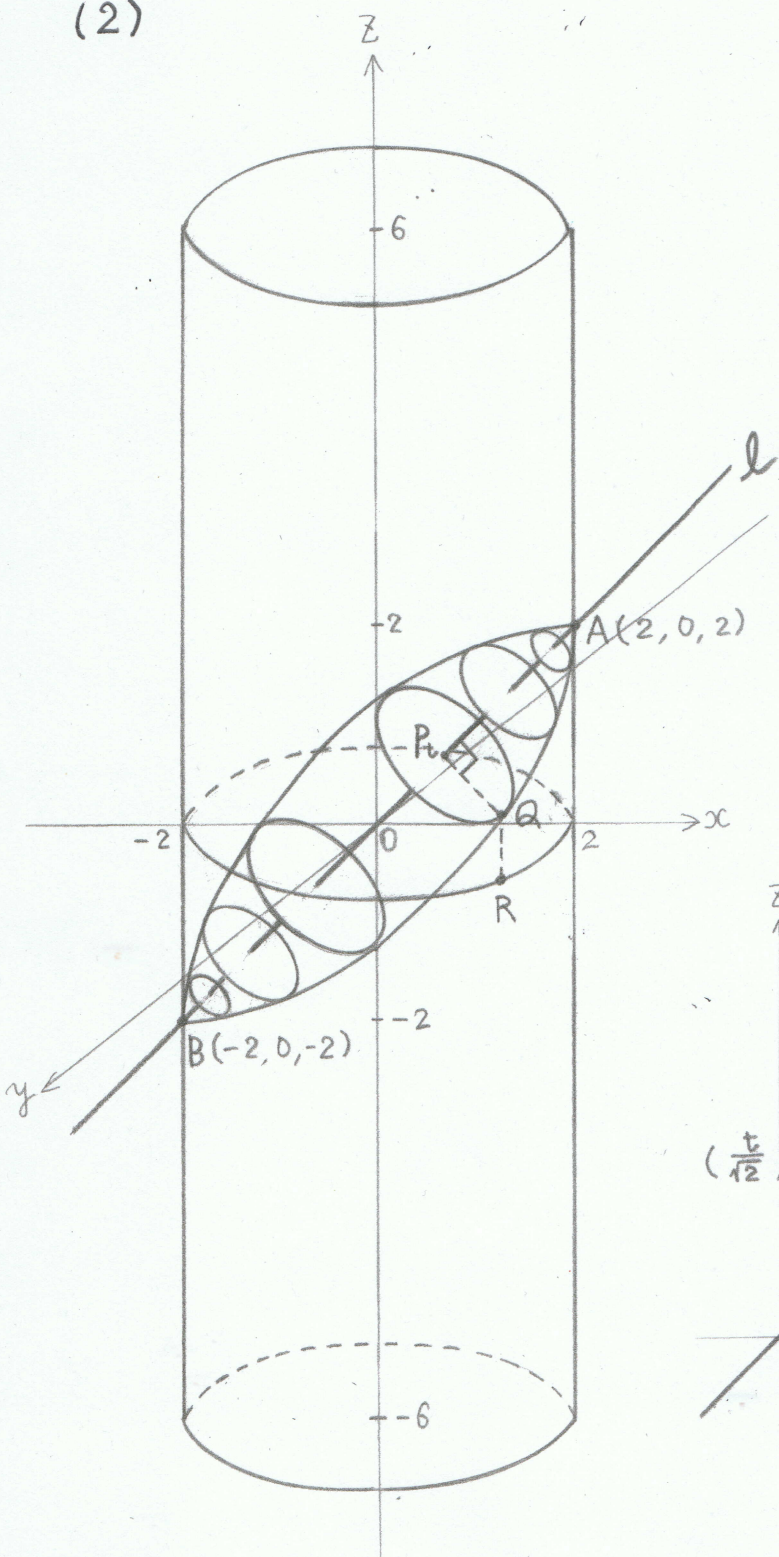
$$2(2\cos\theta - \frac{t}{\sqrt{2}}) + 0\sin\theta + 2(\phi - \frac{t}{\sqrt{2}}) = 0 \quad \text{となる,}$$

$$4\cos\theta - \sqrt{2}t + 2\phi - \sqrt{2}t = 0$$

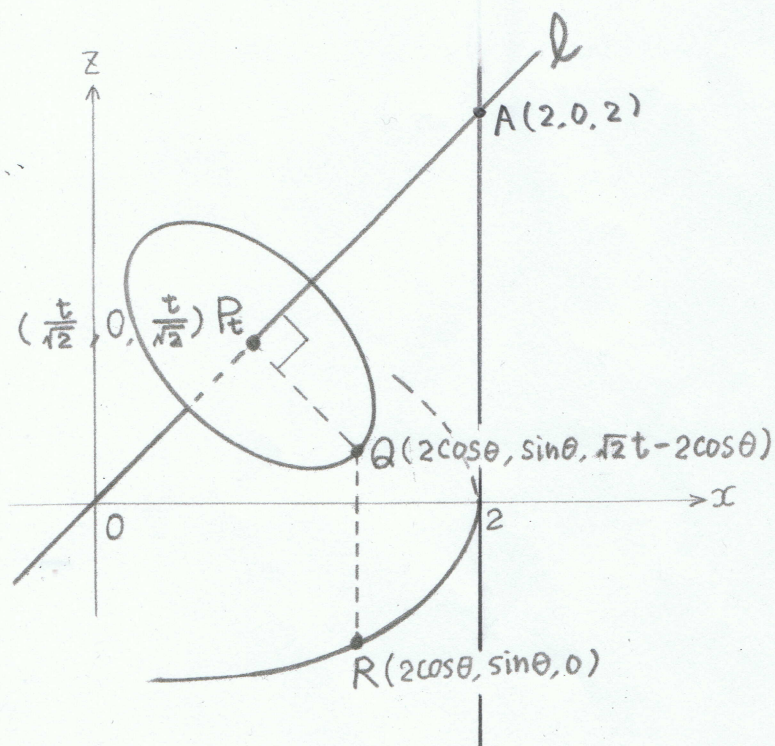
$$2\phi = 2\sqrt{2}t - 4\cos\theta$$

$$\therefore \phi = \sqrt{2}t - 2\cos\theta$$

(2)



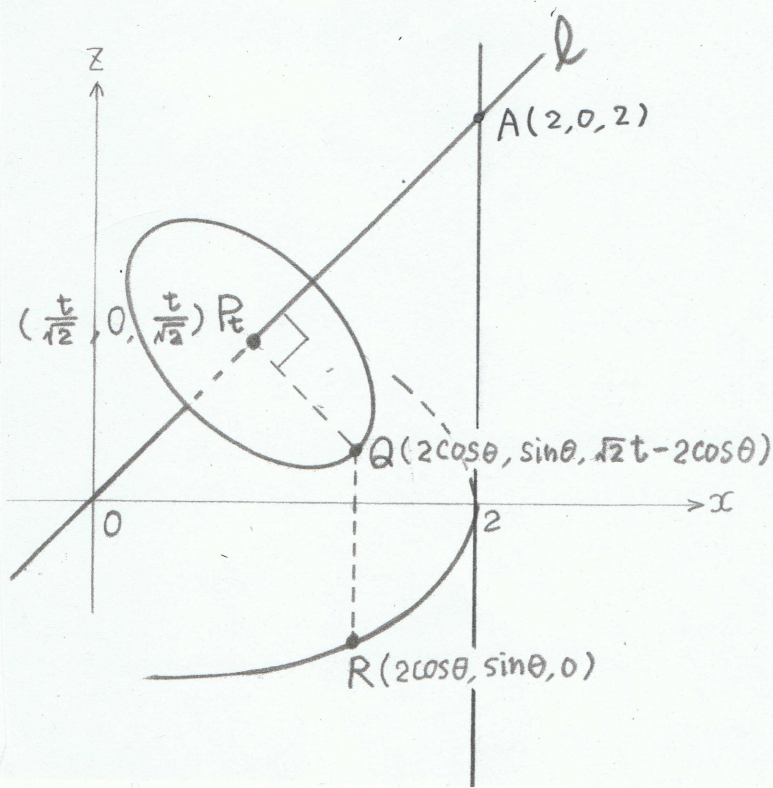
(2)



$l$  を軸とする回転体の体積が最大となるには、  
 点  $P_t$  を通り  $l$  に垂直な平面  $H_t$  上において、

$P_t$  から楕円柱の側面までの最短距離となる点を  $Q$  とすると  
 線分  $P_t Q$  がこの回転体の  $P_t$  における断面の半径となっていれば  
 良いことがわかる。

$P_t$  から楕円柱のどの側面までが最短距離になるかを調べていく。



楕円柱の側面の位置は  
 $\theta$  の関数であるから、  
 $\theta$  に着目して、最短距離を  
 さがしてみる。

$$\begin{aligned}
 P_t Q^2 &= \left(2\cos\theta - \frac{t}{\sqrt{2}}\right)^2 + (\sin\theta - 0)^2 + \left(\sqrt{2}t - 2\cos\theta - \frac{t}{\sqrt{2}}\right)^2 \\
 &= 4\cos^2\theta - 2\sqrt{2}t\cos\theta + \frac{t^2}{2} + \sin^2\theta + 2t^2 + 4\cos^2\theta + \frac{t^2}{2} \\
 &\quad - 4\sqrt{2}t\cos\theta + 2\sqrt{2}t\cos\theta - 2t^2 \\
 &= 8\cos^2\theta - 4\sqrt{2}t\cos\theta + \sin^2\theta + t^2 \\
 &= 8\cos^2\theta - 4\sqrt{2}t\cos\theta + 1 - \cos^2\theta + t^2 \\
 &= 7\cos^2\theta - 4\sqrt{2}t\cos\theta + t^2 + 1 \\
 &= 7\left(\cos^2\theta - \frac{4\sqrt{2}}{7}t\cos\theta\right) + t^2 + 1 \\
 &= 7\left(\cos\theta - \frac{2\sqrt{2}}{7}t\right)^2 - \frac{8}{7}t^2 + t^2 + 1 \\
 &= 7\left(\cos\theta - \frac{2\sqrt{2}}{7}t\right)^2 + 1 - \frac{t^2}{7}
 \end{aligned}$$

←  $\cos\theta$  に着目して  
 整理していく。

ここで、 $\cos\theta = \frac{2\sqrt{2}}{7}t$  のとき  $P_t Q^2$  は  $1 - \frac{t^2}{7}$  の最小値をとるように思われる  
 式が出てきたが、 $-1 \leq \cos\theta \leq 1$  という条件があるので、もう少し細かく  
 見ていく。

$$P_t Q^2 = 7 \left( \cos \theta - \frac{2\sqrt{2}}{7} t \right)^2 + 1 - \frac{t^2}{7} \dots \dots \dots \textcircled{1}$$

回転体の対称性により、 $0 \leq \cos \theta \leq 1$ ,  $0 \leq t \leq 2\sqrt{2}$  で考える。

$$0 \leq t \leq 2\sqrt{2} \text{ より } \frac{2\sqrt{2}}{7} \times 0 \leq \frac{2\sqrt{2}}{7} t \leq \frac{2\sqrt{2}}{7} \times 2\sqrt{2}$$

$$0 \leq \frac{2\sqrt{2}}{7} t \leq \frac{8}{7}$$

$$\text{つまり } 0 \leq \frac{2\sqrt{2}}{7} t \leq 1 \leq \frac{8}{7}$$

このときの  $t$  の範囲は

$$0 \leq t \leq \frac{7}{2\sqrt{2}}$$

$$0 \leq t \leq \frac{7\sqrt{2}}{4}$$

すると、 $0 \leq \cos \theta \leq 1$  のとき  $0 \leq \frac{2\sqrt{2}}{7} t \leq 1$  で“あわび”

①より、 $P_t Q^2$  は  $\cos \theta = \frac{2\sqrt{2}}{7} t$  で最小となり、最小値  $1 - \frac{t^2}{7}$  をとる。

では、 $1 \leq \frac{2\sqrt{2}}{7} t \leq \frac{8}{7}$  のときはどのようになるのか？

そこで、 $t$  と  $\cos \theta$  の値の変化を調べてみよう。

$t$	0	1	$\sqrt{2}$	$\frac{3}{2}$	2	$\frac{7\sqrt{2}}{4}$	$2\sqrt{2}$
$\frac{2\sqrt{2}}{7} t$	0	$\frac{2\sqrt{2}}{7}$	$\frac{4}{7}$	$\frac{3\sqrt{2}}{7}$	$\frac{4\sqrt{2}}{7}$	1	$\frac{8}{7}$
$\cos \theta$	0	$\frac{2\sqrt{2}}{7}$ 0.40	$\frac{4}{7}$ 0.57	$\frac{3\sqrt{2}}{7}$ 0.61	$\frac{4\sqrt{2}}{7}$ 0.81	1	?

$t = 2\sqrt{2}$  のとき、つまり  $\frac{2\sqrt{2}}{7} t = \frac{8}{7}$  のとき、

点  $P_t$  は  $(\frac{2\sqrt{2}}{\sqrt{2}}, 0, \frac{2\sqrt{2}}{\sqrt{2}})$ , つまり  $P_t(2, 0, 2)$  となり、点  $A(2, 0, 2)$  と

一致しているから、点  $Q$  も当然に  $Q(2, 0, 2)$  であるはずである。

そこで、(1)の結果  $g = \sqrt{2}t - 2\cos \theta$  より

$$2 = \sqrt{2} \times 2\sqrt{2} - 2\cos \theta$$

$$2\cos \theta = 4 - 2$$

$$2\cos \theta = 2$$

よって  $\cos \theta = 1$  となるので、

$1 \leq \frac{2\sqrt{2}}{7} t \leq \frac{8}{7}$  のときは、この区間でずっと

$\cos \theta = 1$  であるという=とにちるから、 $P_t Q^2$  の最小値は

$$\textcircled{1} \text{ 式の } \cos \theta = 1 \text{ とし } P_t Q^2 = 7 \left( 1 - \frac{2\sqrt{2}}{7} t \right)^2 + 1 - \frac{t^2}{7} = t^2 - 4\sqrt{2}t + 8 = (t - 2\sqrt{2})^2$$

このときの  $t$  の範囲は

$$1 \times \frac{7}{2\sqrt{2}} \leq t \leq \frac{8}{7} \times \frac{7}{2\sqrt{2}}$$

$$\frac{7}{2\sqrt{2}} \leq t \leq \frac{4}{\sqrt{2}}$$

$$\frac{7\sqrt{2}}{4} \leq t \leq 2\sqrt{2}$$

したがって  $P_tQ$  の最小値も  $r(t)$  とすると

$$r(t)^2 = \begin{cases} 1 - \frac{t^2}{7} & (0 \leq \frac{2\sqrt{2}}{7}t \leq 1 \text{ つまり } 0 \leq t \leq \frac{7\sqrt{2}}{4} \text{ のとき}) \\ (t - 2\sqrt{2})^2 & (1 \leq \frac{2\sqrt{2}}{7}t \leq \frac{8}{7} \text{ つまり } \frac{7\sqrt{2}}{4} \leq t \leq 2\sqrt{2} \text{ のとき}) \end{cases}$$

すると 求める回転体の体積は

$$\begin{aligned} & 2 \int_0^{2\sqrt{2}} \pi r(t)^2 dt \\ &= 2\pi \int_0^{2\sqrt{2}} r(t)^2 dt \\ &= 2\pi \left\{ \int_0^{\frac{7\sqrt{2}}{4}} \left(1 - \frac{t^2}{7}\right) dt + \int_{\frac{7\sqrt{2}}{4}}^{2\sqrt{2}} (t - 2\sqrt{2})^2 dt \right\} \\ &= 2\pi \left\{ \left[ t - \frac{t^3}{21} \right]_0^{\frac{7\sqrt{2}}{4}} + \left[ \frac{1}{3} (t - 2\sqrt{2})^3 \right]_{\frac{7\sqrt{2}}{4}}^{2\sqrt{2}} \right\} \\ &= 2\pi \left\{ \frac{7\sqrt{2}}{4} - \frac{49\sqrt{2}}{96} + 0 - \frac{1}{3} \times \left(-\frac{\sqrt{2}}{32}\right) \right\} \\ &= 2\pi \left( \frac{119\sqrt{2}}{96} + \frac{\sqrt{2}}{96} \right) \\ &= 2\pi \times \frac{120\sqrt{2}}{96} \\ &= 2\pi \times \frac{5\sqrt{2}}{4} \\ &= \frac{5\sqrt{2}}{2} \pi \end{aligned}$$